

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻
博士論文 要旨

妊娠後期から持続する骨盤底の困窮状況 (Pelvic Floor Distress : PFD) に関する研究

東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科 医療保健学専攻
博士課程
領域名：看護学
学籍番号：HD121003
氏名：吉岡 なつ美

背景 (Background)

骨盤底の困窮症状 (Pelvic Floor Distress : PFD) は、骨盤底筋群である肛門挙筋の剥離損傷と拡張に伴う症状として尿失禁や便失禁などの排泄に関わる諸症状 (結腸直腸肛門障害、下部尿路障害) や骨盤臓器脱を包括した概念である。疫学的には米国人女性の約 25% に症状が知られている。しかし、出産前後の PFD 症状について、長期的にフォローアップした知見が少なく不明な点が多い。

PFD は各種の機能障害を示す症状で多臓器にわたり、自覚症状は複合的で QOL に影響し多科の受診傾向と多職種の間接的関与がある。看護職は、相談窓口となり専門医等への受診行動と多職種間の連携支援を担う。

PFD は妊娠後期にすでに出現しており、出産を経てその状態が変化し一部の症状は長期的に残存し慢性的に進行すると考えられている。助産師は妊娠・出産に関連した PFD 症状に気づき、包括的に観察と評価を行い、産後のセルフケア能力向上を目的とした健康教育の提供と支援を行うことが求められる。そこで、妊娠後期から持続する PFD 症状とその経時的変化を明らかにし、さらには PFD の進行抑制エビデンスを蓄積していくことが喫緊の課題とされる。

目的(Objective)

本研究の目的は妊娠後期から出産後 9～10 か月までの期間における PFD の自覚症状について、日本語版骨盤底困窮度質問票 (以下 Japanese version of the pelvic floor distress inventory-short form 20 : J-PFDI-20 と表記する) を用いて評価しその経時的変化を明らかにすることである。さらには出産後に持続する PFD 自覚症状を妊娠後期に検出し、骨盤底機能低下の進行抑制に向けた助産師による PFD 支援の基礎的知見を得ることを目的とした。

方法(Methods)

本研究では出産前後の4時点（Ⅰ期：妊娠後期、Ⅱ期：産後1か月時、Ⅲ期：産後3~4か月時、Ⅳ期：産後9~10か月時）におけるPFD自覚症状を調査した。調査は2段階に分けて行われた。第1段階の調査ではⅢ期の対象者154名（有効回答割合40.1%）に現在の症状と、Ⅰ期、Ⅱ期の症状を想起により回答を求めた。

第2段階調査では、初回調査の有効回答者に対し2回目の調査（Ⅳ期）を依頼し、有効回答を得た84名（有効回答割合18.5%）を対象とした。Ⅰ期からⅢ期横断観察研究と、Ⅲ期とⅣ期の縦断調査による前方視的観察研究である。

J-PFDI-20を用いて骨盤臓器脱障害、結腸直腸肛門障害、下部尿路機能障害の3カテゴリーの自覚症状合計20問を定量化（以下PFDI値と記す）し、Friedman、Bonferroni検定、重回帰分析を用いて経時的変化と関連する要因等を統計学的に分析した。

さらに、出産後9か月以降も継続するPFDI高値となる女性について、妊娠後期PFDI値を用いた識別可能性について解析し（ROC解析）PFDの進行抑制のための助言支援の時期について検討した。

結果(Results)

- 1.Ⅰ期にPFDI値は高値を示し（ $p<.05$ ）、Ⅳ期を観察し得た女性ではⅢ期、Ⅳ期の得点に有意な低下を認めなかった。
- 2.カテゴリー別では、結腸直腸肛門障害は経時的な改善が乏しく、一部に骨盤臓器脱による排尿困難症状を認めた。
- 3.Ⅲ期PFDI高値の要因に分娩様式（経膈分娩と帝王切開）の関与を認めなかった（ $p<.05$ ）。
- 4.Ⅲ期PFDI高値の要因に妊娠後期PFDI高値があり、妊娠後期からのJ-PFDI-20を用いた困窮状況の鑑別診断が有効と示唆された。
- 5.Ⅳ期PFDI高値例（24.2超過：75%タイル値）を症状持続陽性群とすると、Ⅰ期PFDI値によるⅣ期症状陽性群の病態識別値は54.2であった。（ROC解析）。

結論 (Conclusions)

PFDは帝王切開の既往のある妊産婦を含めて分娩前の妊娠後期に既に発症し、産後3ヶ月以降概ね1年は症状が持続または悪化を示した。産後3~4か月以降にPFDが自然軽快することを期待することは妥当ではなく、より早期から介入すべきであると考ええる。

妊娠後期PFDI値54.2超過は産後長期に持続するPFDの病態識別指標となる可能性が示唆された。また、骨盤臓器脱による排尿障害の症状はPFDI値の高低に関わらずどの時期においても着目すべき観察指標である。

以上よりJ-PFDI-20自記式評価を用いた妊娠、出産による骨盤底機能の観察は、PFD進行抑制の支援に有用である。

キーワード (Key Words)

Pelvic Floor Distress、骨盤底、尿失禁、骨盤臓器脱、妊娠、出産